

(様式1)

校 種	小 ・ 中	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-------	------	-----	-----	------------

令和6年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・心身ともに健康で勤労を尊ぶ生徒
- ・基礎となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- ・礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- ・主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- ・文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

生徒の信条 「強く 賢く 美しく」

2 学校経営の理念

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、全ての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針

- (1) 現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- (3) 小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

【城山地域学校園教育ビジョン】 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～

みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画や指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を

通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の充実を図る。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

- ・一人一人のよさや努力を認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実
- ・地域の教育力、小中の連携を生かした教育活動の推進
 - ・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（SDGs への取組活用）
 - ・組織的対応及び業務の効率化等による働き方改革の推進（部活動の外部指導者活用）
 - ・全職員の学校経営参画意欲の向上

（2）学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（宇都宮モデルの活用）
 - ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画表等の活用）
 - ・学習評価による指導改善・学習改善の充実（指導と評価の一体化）
 - ・ICTを活用した個に応じた授業の充実
- ・SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進

（3）児童生徒指導

- ・常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の充実
- ・達成感や自己肯定感を高める指導の充実
- ・認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止
 - ・生徒参画による校則の見直しを通じた規範意識の醸成

（4）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開
- ・健康相談や保健指導等を通じた、健康の保持増進
- ・望ましい食習慣の定着と家庭と連携した指導の充実
- ・家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

- ・宇都宮の特色や魅力に関する事項についての知識を身に付け、郷土のよさを理解することができる力
- ・宇都宮に係る習得した知識を活用して、郷土に対する思いや魅力を効果的に表現したり、郷土の未来を考えたりすることができる力
- ・郷土宇都宮を愛する心情、宮っことしての誇りをもって、郷土宇都宮の未来を切り拓いていこうとする実践的な態度

- ・ SDGs を活用した学習に取り組む経験を積むことを通して、他地域や他国の人々との交流に自信をもって対応できる力
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）
- ◇①地域のよさを知る「ふるさと学習（宇都宮学）」の推進
- ・ 総合的な学習の時間の「ふるさと学習（宇都宮学）」における、学年別学習テーマの設定
 - 第1学年「城山地区の歴史を学ぼう」
 - 第2学年「城山地区の魅力ある産業について学ぼう」
 - 第3学年「城山地区の魅力を発信しよう」
 - ・ 大谷石加工体験（2学年で実施）など地域の外部講師を活用した教育活動の実施
 - ・ 学習の成果を共有する場の設定
 - ・ 「ふるさと学習（宇都宮学）」の学校ホームページ等での紹介
- ②城山地域学校園における授業力向上プロジェクト研究の推進と SDGs への取組推進
- ◇・ SDGs, 主権者教育と関連を図った宇都宮学の学習の充実に向けた研究
- ・ 学校園内の小中学校で実施している SDGs への取組の共有と小中連携
 - ・ SDGs への取組を中心とした、他地域や他国の中学校との交流
- ③地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度を養う地域交流、地域貢献活動の充実
- ◇・ SDGs の視点を加えた自治会単位での「城山あったか活動」の生徒による企画と実施
- ・ 「城山あったか活動」の学校ホームページ等での紹介
 - ・ 「城山地区体育祭」「城山地区文化祭」等、地域行事におけるボランティア活動の奨励
 - ・ 学校の教育活動への理解を深めてもらうための土曜授業や学校公開の実施
 - ・ 学校支援ボランティアの活用と盲学校との交流活動
- ④小中一貫教育の推進
- ・ 小学6年生の中学校訪問の充実
- ◇・ 学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学校6年生の招待
- ・ 地域学校園あいさつ運動の推進
 - ・ 地域学校園内小中学校合同での冒険活動教室の充実（R6も実施）
- ⑤魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力による各種教育活動の企画・推進
- ・ 城山未来塾（学習班）の実施
 - ・ 城山再発見の実施
 - ・ 地域協議会コーナー（城山ライブラリー）の充実
 - ・ 「城山あったか活動」川柳募集

8 本市の重点施策・事業との関連

- (1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携協働を含む）
- ①基本的考え
- 「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「(1) 育てたい資質・能力」を育成するために、魅力ある学校づくり地域協議会や地域内の各団体・人材を有効かつ積極的に

活用し、連携・協力を深める。

②主な取組

「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「(2) 具体的取組」参照

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園として育成したい小中共通の児童・生徒像を明確にして取り組むことが大切であることから、部会ごとに小中共通の重点目標を共有して連携・協力する。

②主な取組

ア．学力向上・宇都宮学部会

- ・地域学校園としての「学習のきまり」や「家庭学習の手引き」の作成・配付と活用
- ・「城山ライブラリーニュース」の発行
- ・地域学校園内授業公開の実施
- ・「宇都宮学」の学習の充実に向けた研究

イ．学校生活適応支援部会

- ・地域学校園あいさつ運動週間の設定 5月、11月（中学生の小学校訪問）
- ・小中児童情報の引き継ぎ 3月（対象：小学6年）
- ・児童生徒情報の共有のための小中学校の連携強化（「生活のきまり」の共有）

ウ．健康・体力・食育推進部会

- ・保健指導に関する小中連携の充実
- ・地域内の食材を使った統一献立の実施
- ・「お弁当の日」の統一実施

エ．交流連携推進部会

- ・小学校への乗り入れ授業の企画，実施
- ・中学校学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学6年生の招待
- ・「城山地域学校園小中一貫教育だより」の発行（年2回）
- ・地域学校園内小中学校合同の冒険活動教室（R6 も実施）及び小学6年生の中学校訪問の充実

(3) 不登校対策

①基本的考え

不登校生徒を生まないために、「魅力ある学校づくり」を推進しながら「悩みの早期発見・早期対応及び精神的に強くたくましい生徒の育成」を図るとともに、不登校生徒に対する支援充実のために「一人一人の実態に応じた効果的な支援」を推進する。

②主な取組

- ・「学校生活に関するアンケート」（年5回）や教育相談の実施と充実
- ・WEBQU結果の分析と指導・支援への有効活用
- ・教育相談体制の充実（週1回の生徒指導部会による不登校の兆しの早期発見・早期対応）
- ・不登校傾向の生徒の居場所となるサポートルーム（別室登校支援）の効果的な運用

- ・保護者と連携した初期対応と1人1台端末を活用した連絡・学習支援

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

全ての生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、学校教育情報セキュリティポリシーを踏まえ、全教職員共通理解の下、1人1台端末環境を生かした教育活動を推進する。

重点目標 「STEP2 教科の学びを深め、学びの本質に迫る」

②主な取組

- ・端末の活用ルール徹底と校内指導管理体制の整備
- ・各教科等のねらいを達成するために、協働学習ツール等の効果的な活用方法の研修実施
- ・情報モラルに関する指導とデジタル・シティズンシップ育成の充実
- ・ICT支援員の効果的な活用について地域学校園で情報交換

(5) 宇都宮学

①基本的考え

城山地域学校園の特色を最大限に生かすとともに、SDGs、主権者教育との関連を図り「宇都宮学」を推進する。

②主な取組

- ・本校が城山地区の特色である自然や産業等を生かし長年実施している「ふるさと学習」に、「宇都宮学」の内容を位置付ける
- ・城山地域学校園における授業力向上プロジェクトの研究として、「SDGs、主権者教育と関連を図った宇都宮学の学習の充実に向けた研究」を実施
- ・魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、「宇都宮学」で活用できる資料を収集した「城山ライブラリー」の充実
- ・城山地域学校園内における学習内容（SDGsを含む）の共有化

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番 号	1 5	学校名	宇都宮市立 城山中 学校
-----	-----------------	----------	-----	-----	--------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

学習内容定着度調査（3年）の結果から

- ・国語科…全体的に市の平均をやや下回っているが、特に「読むこと」は7.8ポイント市の平均を下回っている。
- ・社会科…全体的に市の平均を下回っている。「地理的分野」、「歴史的分野」は約5ポイント、「公民的分野」は8.1ポイント市の平均を下回っている。
- ・数学科…全体的に市の平均を下回っている。特に数と式については7.8ポイント市の平均を下回っている。
- ・理科…全体的に市の平均を下回っている。特に「生命」については10.2ポイント、「粒子」では9.4ポイント市の平均を下回っている。
- ・英語科…すべての領域・観点で市の平均を下回っている。特に「書くこと」が7.7ポイント市の平均を下回っている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

学習内容定着度調査の学習と生活についてのアンケートから(カッコ内は市の平均値)

- ・「授業を集中して受けている」という項目に対する本校の肯定的割合は1年生が89.9ポイント(86.9)、2年生は88.0ポイント(86.7)で市の平均を上回っていた。
- ・家庭学習では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定的割合が、1年生では36.0ポイント(40.3)2年生では36.1ポイント(34.3)であった。また、「平日の学習時間」では市の平均時間より低い傾向がある。学習習慣・学習内容に関しては今後見直す必要がある。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学年や教科によって若干の偏りはあるものの、チャイム着席や授業開始・終了時のあいさつなど、時間を守り落ち着いた態度で授業に臨んでいる生徒が多い。また、PCを活用した活動の質問に関しての肯定的割合はほとんど市の平均より高く、ICTを活用した授業実践の成果が見られる。
- ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」という項目に対する生徒の肯定的割合は、1年生では71.9ポイント(68.9)、2年生は78.3ポイント(73.4)と少しずつ授業の中で話し合いの機会を数多く設定してきた結果が出ている。
- ・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、1.2年とも市の平均

を上回っている。授業の中で話し合いの機会を数多く設定してきた結果が出ている。今後も主体的・対話的で深い学びの実現に向けて力を入れて取り組んでいきたい。

2 今年度の重点目標

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（宇都宮モデル活用）
- ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画等の活用）
- ・学習評価による指導改善・学習改善の充実（指導と評価の一体化）
- ・ICTを活用した個に応じた授業の充実
- ・SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 「宇都宮モデル」を留意した授業展開や、1人1台端末による協働学習ツール等の活用についての研修や情報交換を行う。
- 「校内公開授業週間」を企画し、教職員の指導力の向上を図る。
- 学習課題と「見通し」から授業の目標を明示し、課題の設定や発問の仕方を工夫して課題解決への意欲を持たせる。
- ★各教科で話し合い活動等（協働学習ツール活用も含む）を積極的に取り入れ、言語活動の質的向上を目指す。生徒が自力または他者と交流して課題解決にあたるのを、一人一人の学びを見取りじっくりと取り組んでいくように適切に支援する。
- ・漢字や計算力、英単語等の基礎学力を確実に定着させるため、単元末テストや小テストを計画的に継続して行い、AIドリルを活用する。
- 課題解決的な学習展開を工夫して主体的に学ぼうとする意欲をもたせ、授業の終末では本時の学びを振り返らせる。

（2）学力の定着と向上

- ★□「全国学力・学習状況調査」や「学習内容定着度調査」・「学習と生活についてのアンケート」等の結果から、基礎・基本の定着状況や学習への意識を把握して、課題を明らかにした上で指導の工夫や改善について教科部会等で協議し、共通理解を行う。
- ※令和6年度1学期の共通実践事項。（目標、振り返りを充実させた授業・評価の改善）
- ★○「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させ、基礎・基本の定着を図るとともに、自主的に学ぶ意欲を高める。
- ★家庭学習について各教科で予習・復習の仕方、テスト勉強の仕方、AIドリルの活用法などを指導し、適切な課題を与えて授業やテスト等で活用させることで、効果的な学習の仕方を身に付けていけるようにする。
- ・一人一人に応じた指導を行うため、個々の生徒の特質を教職員で共通理解し、TTや習熟度別学習を行うとともに、かがやきルームを支援的に活用する。
- ・学習指導を充実させるため、小学校と学習状況についての情報交換や相互授業参観を継続して行う。

○3分前チャイムによる着席、授業開始・終了時のあいさつ、授業中の姿勢など授業でのルールやマナーを徹底し、学業指導を通して学びに向かう集団を育成する。

(3) 未来を生き抜く力の育成

○地域学校園で指導している「学習のきまり」との関連をもたせながら、発言の仕方や他の生徒の発表の聞き方・ノートの取り方などについて、授業ガイダンス等において指導を行う。

○一人一人のよさを認め励ますことで、意欲的に課題に取り組む姿勢を育てる。

★□総合的な学習の時間（ふるさと学習・あったか活動）をとおしてSDGsと主権者教育との関連を図った宇都宮学の推進を図る。

□○授業で1人1台端末等のICTを活用して学習の充実を図り、情報リテラシーおよびデジタル・シティズンシップを育成する。

・総合的な学習の時間と学級活動等においてキャリア教育・主権者教育に関わる学習の充実を図り、「宮・未来キャリア・パスポート」等の活用によって主体的に学ぶ力と社会を生き抜く力を育む。

(様式3)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和6年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・他者へのからかいや不快な表現から感情的になり善悪の判断がつかずトラブルにつながる傾向があるが、日常の相談や学校生活のアンケートなどから早期解決に至っている。
- ・不登校生徒が年々増加傾向にある。当該生徒への対応として、学級担任が家庭に連絡をしたり定期的に家庭訪問をしたりしている。支援が困難な生徒に関して、生徒指導部会で情報の共有と支援の方向性を検討している。学校内では、SC・MSの活用や教室に入れないう生徒の一時的な居場所としてサポートルームを活用し、安心して相談・生活できる場を設けている。また、市教育センターやSSW、まちかどの学校等の適応支援教室など学校外の関係機関とも適切につながり、チームとして対応を検討しながら支援にあたっている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・いじめ防止についての取組では、いじめ防止に関する道徳の授業や特別活動、集会やアンケートの実施を継続して行っており、生徒の肯定的回答は94.4%であった。
- ・アンケートにおける「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」生徒の肯定的回答の割合は90.4%であり、多くの生徒が学習に前向きに取り組んでいる。

(3) 学校生活の状況から

- ・生徒会主催によるあいさつ運動などの継続的な取組を行っており、生徒のあいさつへの意識は高まってきている。帰りの会等の時間に、級友のよさや活躍を発表するなどして温かい雰囲気づくりや集団づくりを行っている。また、生徒会活動への積極的な参加が見られ、生徒が主体となって委員会活動に取り組んでいる。
- ・学校行事や地域のボランティア活動に積極的に参加する生徒が多い。一方で、学習面や生活面で、目標を立てたり取組を継続したりすることが難しく、物事への集中力や粘り強く取り組む姿勢に欠ける生徒も多い。

2 今年度の重点目標

- ・常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の充実
- ・達成感や自己肯定感を高める指導の充実
- ・認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止
- ・生徒参画による校則の見直しを通じた規範意識の醸成

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 時と場に応じたあいさつやマナー、身だしなみ等の習得を目指す取組の工夫

- ・あいさつやマナー向上のため、生徒会を主体として学級単位や学年縦割りのあいさつ運動を実施するとともに、小学校と連携したあいさつ運動を継続して行う。（小・中学校が連携したあいさつ強化期間を年2回設定する。）
- ・生徒指導主事を中心に、学校の現状から課題をとらえ「月の生活目標」を設定し、全職員で生徒がよりよい習慣を身に付けられるよう指導する。また、週1回行われる部会におい

て目標と実施の確認を徹底し、学校全体で取り組む雰囲気を作る。

- 基本的な生活習慣が確実に身に付くように、全教職員が、普段からよりよい生活習慣について生徒へ語りかけたり、ともに考えたりする機会を設ける。また、生徒が主体となって身だしなみを整えることができるよう、定期的に身だしなみの確認を行う。

(2) ★生命や人権を尊重する態度の育成といじめを許さない集団づくり

- 〇いじめの未然防止のため、「学校生活に関するアンケート」を継続実施するとともに、生徒主体による「いじめゼロ集会」の実施や「イエローリボン」の配付・着用を通して、思いやりの心やいじめを許さない態度を育成する。
- SNSに係ることやスマホ・携帯電話等によるトラブル防止のための出前講座やマナーアップ講座などを実施し、社会のルールやマナーについて考えさせる。
- 〇道徳科の授業において、生命や人権を尊重する態度やいじめを許さない態度を育てる授業を実施したり、各教科領域や特別活動において、生徒の考えや実践及び作品などを互いに称賛したりすることなどを通して、生徒一人一人にとって心理的・物理的に安心安全な集団や環境づくりを学校全体で行う。

(3) ★自己有用感を高める指導の工夫

- 生徒の自己有用感を育んだり自信を深めたりするために、学習面や学校行事において、粘り強く取り組むことができるよう生徒個々に支援をし、その過程や達成できた事実に対して承認・称賛する。
- よりよい集団を築いていく一員という視点で役割を与えたり、その実践を振り返り認めたり（認め合ったり）することを通して、「人のために役に立てた・貢献している」という喜びや達成感を実感できるような機会を意図的に設定する。また、生徒の成功体験を学級の時間や学年集会、生徒会活動、表彰などを通して計画的に称賛する機会を設ける。

(4) ★集団に適応できない生徒や問題行動等のある生徒への適切な対応・支援

- 〇自己存在感のある居心地のよい学級づくりのため、Q-U検査や年3回の教育相談（三者懇談を含む）を実施・充実させる。
- 〇生徒の悩みや不安、問題行動等の早期発見・早期対応のため、各種関係機関やSC、MS等と定期的な情報交換を行うなど、連携を強化していく。また、サポートルームや1人1台端末を活用し、学校での柔軟な対応を行う。
- 〇全教職員の共通理解のもとで一貫した校内支援ができるように、定期的な連絡会議をもち生徒指導の記録や出欠席の記録などを活用し、支援の方針等を明示する。
- 〇職員研修において、不登校についての理解や対策の立て方、事例検討会等を実施する。

(5) 交通ルールや情報モラルの指導と規範意識の醸成

- ・交通ルールや交通法規を守ることや交通マナーについての指導を徹底し、事故防止に努める。登校指導・下校指導を適切に行い、危険箇所について説明し周知する。また、生徒が危険箇所を調べ、伝えることで危機意識を高める。
- デジタル・シティズンシップ教育におけるリテラシーを向上させるために、社会の中でのSNSトラブル等に関する具体的な事例をあげて指導するなど、正しく安全にデジタル社会に関わることができるよう、生徒指導主事と情報メディア教育担当が中心となり、日常から学級や学校全体での情報モラルに関する指導を徹底する。また、ノースマホデーや出前講座などを効果的に活用する。
- ・社会通念を鑑み、生徒とともに校則を適切に見直すことを継続して行う。

(様式4)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和6年度 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食育・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・今年度まで課題とされていた投げる力について、昨年度同様学校全体で全国平均値とほぼ同等であった。全身持久力については、これについても引き続き昨年度から学校平均値と全国平均値を比較しておよそ6pt 下回っている。
- ・肥満傾向の生徒が10.92%、痩せ傾向の生徒が2.39%いることがわかった。
- ・未処置歯のある生徒は26.62%で、全国平均を大きく上回っている。また、歯科検診で要治療となった生徒の受診率は32.2%とあまり進まない状況である。
- ・裸眼視力1.0未満の生徒は全国平均に比べて低いが、裸眼視力1.0未満の生徒は52.38%いる。さらに、0.3未満の生徒は全体の25.64%で、前年度よりも少し増えている。

(2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

(体力)

- ・新体力テストの結果から見えた学校全体の課題を生徒に伝え、体力の実態について全生徒が把握することができた。そのことから、授業だけでなく、普段の生活の中でも意識して体力の向上を図ろうとしている生徒の様子が学習カードや授業、部活動を取り組む様子等から見取れた。特に、生徒会を中心に体力アッププロジェクトの実施ができたことは課題解決の具体的な方策となった。

(保健)

- ・保健について、質問項目「生徒は、手洗いやうがいを行なうなど、健康の維持増進に気を配っている」の肯定的回答は、教職員100%、生徒94.4%、保護者90.5%であった。生徒の結果は前年度より少し低下している。

(食育)

- ・食事について、元気っ子健康体力チェックのアンケート項目「栄養バランスを考えて食べることは大切だと思う」で本校生徒の肯定的回答は85.4%であった。しかし、「好き嫌いをしないで食べていますか。(嫌いなものでも1口は食べている)」の質問に対して、「食べている」と答えた生徒は57.3%であり、知識・理解はあるが具体的に行動を起こす方法についての課題があることが分かった。

(保健・安全)

- ・宇都宮市学校マネジメントアンケートから、「健康や安全に気を付けて生活をしている」の生徒は90.5%で、前年度より4.3%減少している。手洗いの励行やマスクの着用、アルコール

消毒の徹底等の感染対策だけでなく、歯科保健や目・姿勢に関する啓発活動、定期的な交通安全指導、登校指導等、様々な面から健康や安全について生徒が主体的に考える機会を与えながら指導する必要がある。

(3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

(※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。)

(体力)

- ・全身持久力の課題解決の取組として、ほぼすべての授業の導入部分でランニングを取り入れた。年度当初には、苦しそうに走っていた生徒も、年度末にはほとんど見る事がなく、持久力の底上げにつながった。今年度でも継続していくことが求められている。

(保健)

- ・うつのみや学校マネジメントアンケートの質問項目「手洗いやうがいを行なうなど、健康の維持増進に気を配っている」の肯定的回答が、教職員・生徒・保護者ともに90%を超える結果になっている。これの背景には、衛生検査（ハンカチ等の持参状況の確認）や手洗いチェックの活用等の手洗い推進活動を、生徒保健体育委員会が主体となっていたことが考えられる。

(食育)

- ・給食委員会の活動を支援し、学級担任と連携して食事マナー指導を行うことができた。また、学校給食を生きた教材として活用し、図書館司書や養護教諭とも連携を図ったことで多くの行事食や郷土料理を提供することができた。保健体育や家庭科などの授業にも、学校栄養士がT2として入り、学校全体の食育の推進に貢献した。

(安全)

- ・スクアードストレイト方式による交通安全教室の実施や、日々の登下校についての指導（校内放送や学級指導）により、生徒の登下校時のマナーアップが見られた。また、学校生活上の安全な生活において、月に1度の安全点検を実施し、随時危険箇所や故障箇所を管理職に報告するなどして対応した。学校環境の様々な箇所が積極的に修繕・修理された。

2 今年度の重点目標

- ・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開
- ・教育相談や保健教育を通じた健康の保持増進
- ・望ましい食習慣の定着と家庭と連携した指導の充実
- ・家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

(1) 体力の向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開

- ★□体力の課題項目における生徒が主体的に解決に取り組めるような活動の工夫
(生徒の運動実施の二極化対策)

- ★□地域学校園で9年間を見通した系統的な体育指導（元気アップ）

(2) 健康と食の安全確保

- ★□保健だよりの発行及び学校HP掲載（毎月）

★☐外部機関等と連携した保健教育【薬物乱用防止教室（全学年）・性教育サポート事業（３年生）・デートＤＶ防止出前講座（２年生）】

★☐生徒保健体育委員会による健康情報の発信・衛生検査（ハンカチ等の持参状況を確認）・手洗いチェック・歯ブラシチェックの実施

★☐学校保健委員会・学校給食委員会及び給食試食会の開催（１２月）

★☐歯科保健活動の推進（給食後の歯みがき指導・むし歯等の治療の推進・個別及び集団の歯みがき指導・８日「城中歯みがきデー」の実施等）

★☐地域学校園小中学校間の情報交換及び発達段階に応じた系統的な保健教育の継続

★☐性教育（ジェンダー平等を含む）や心の健康に関する取組の実施

★☐目や姿勢に関する健康教育の推進（「立腰強化日」や「城中ノートブレットデー」の実施等）

★☐生活習慣改善（朝食欠食や睡眠不足の改善）に向けた取組の実施

（３）食習慣の形成と食に対する感謝の念の育成

★☐給食指導の徹底（通年）

★☐食育だよりの発行及び学校ＨＰ掲載（毎月）

☐給食一口メモ放送（毎日）、リクエスト給食（年２回）、バイキング給食（３年生・２月）実施

★☐栄養教諭とのティームティーチングによる、食に関する指導の実施（随時）

★☐家庭と協力した「お弁当の日」の実施（年２回）

★☐地域学校園内での食育だよりの交換と校内掲示

★☐地域学校園小中学校間の情報交換の密化と発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続（地域学校園の統一献立の実施等）

★☐地域と連携した地産地消の推進

★☐保健と連携した朝食指導（通年）

（４）危険予測・回避能力の育成

☐生徒会環境整備委員会による校内美化コンクールの実施（１２月）

★☐各外部機関と連携した火災・地震・竜巻・不審者侵入を想定した避難訓練（４・１１月）

★ 災害時や不審者に関する情報の家庭や地域への提供

★☐消防署と連携を図った職員の心肺蘇生法研修の実施（５月）

☐宇都宮ブリッツェンによる交通安全教室の実施（全学年対象・１０月）

★☐家庭・地域と連携を図った交通安全指導の充実（交通ルールやマナーの遵守）